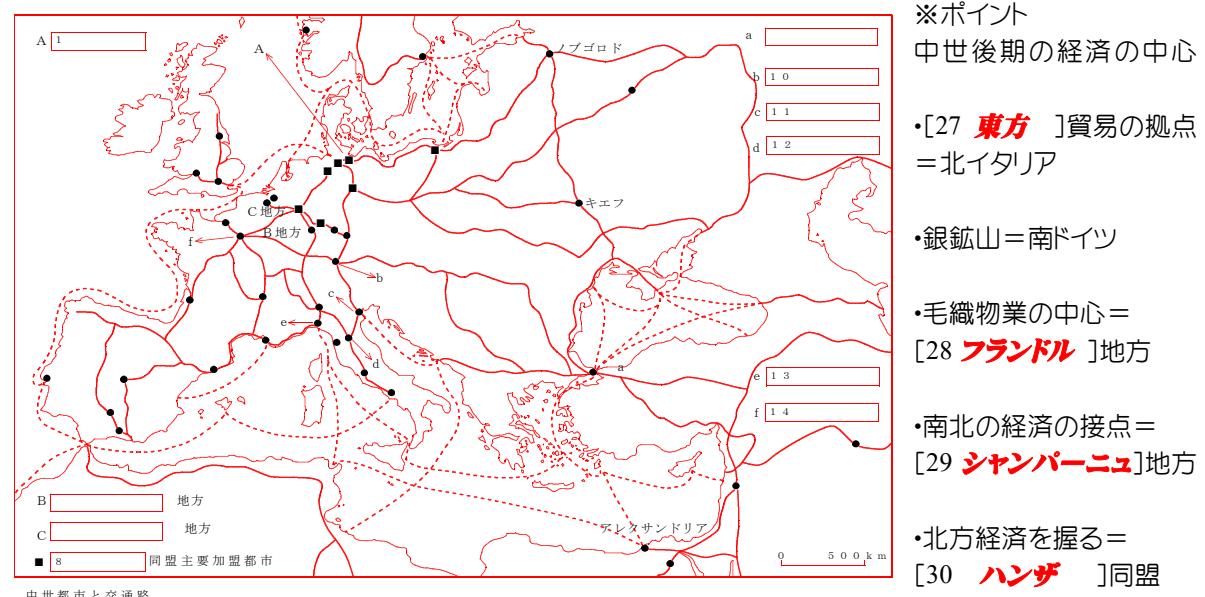
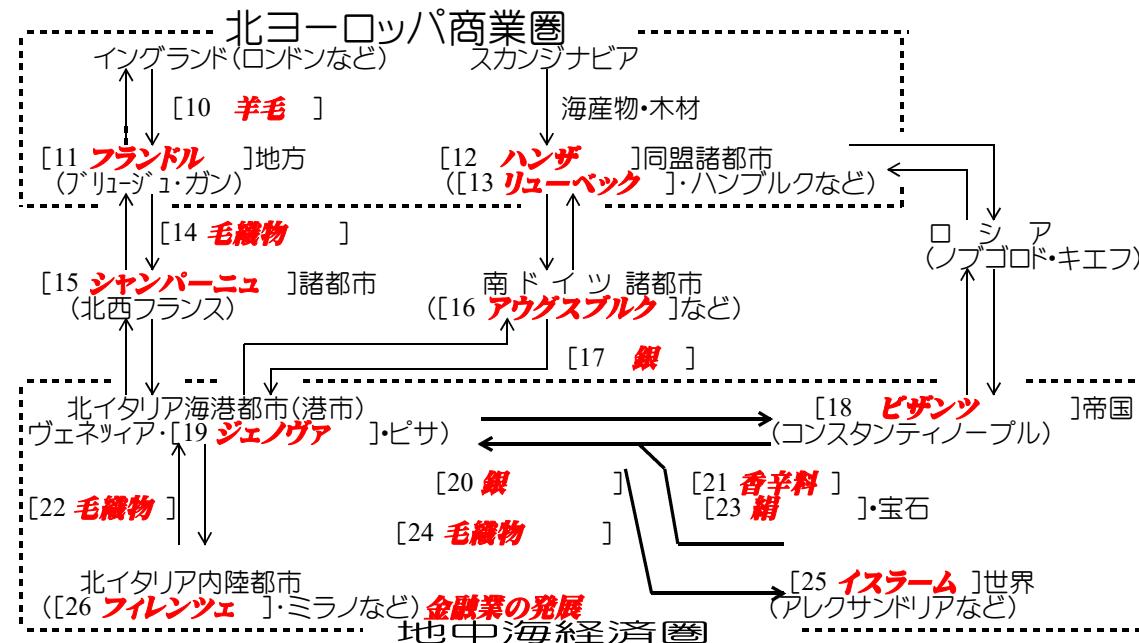


### 第6章 3. 中世世界の変容 b. 商業の復活

封建社会が安定し農業生産力が増すと、人々は[1]余剰生産物の交換を活発化、[2]商業が復活、[3]貨幣経済も発展した。また定期市はしだいに[4]都市へと発展、商人や莊園内にいた[5]手工業者たちも都市に集まつていった。さらに[6]十字軍の影響で交通が発達、都市同士を結ぶ[7]遠隔地交易が発展した。11～12世紀におけるこうした都市や商業の発展を[8]「商業の復活」(「商業ルネサンス」という)。

①遠隔地交易の発展←[9]十字軍の遠征などの影響

西ヨーロッパ全体を結合する流通網の形成



### c. 中世都市の成立

①都市…重要な[31]教会(司教座教会など)のある都市などがもとになって成立

→11から12世紀以降、領主との対抗上[32]皇帝や国王から[33]特許状を得て自治権獲得  
=[34]自治都市成立

→皇帝・王=[35]諸侯の力をあさるために[36]都市の協力を得る。

②自治都市の類型

北イタリア…領主を倒し自治都市(コムーネ)として完全な[37]独立国となる。

周囲の農村を含めた[38]都市共和国型。[39]都市貴族が指導者。  
ドイツ…皇帝に直属し、[40]自由都市(帝国都市)として[41]諸侯と同様の地位を得る。  
城壁内部のみを支配。

③都市同盟…[42]ハンザ同盟(北ドイツ)、[43]ロンバルディア同盟(北イタリア)

諸侯らとの対抗上、都市同士が同盟を結ぶ

ハンザ同盟…中世、[44]北ドイツに成立した都市同盟。[45]リューベック市を盟主とし共同の軍隊ももち、[46]北ヨーロッパ商業圏を支配し、政治的にも大きな勢力を維持した。

④イギリスやフランスなど…[47]国王と結び、その国内市場統一に協力

都市は、はじめ封建領主の保護を受けていたが、11～12世紀以降、[48]諸侯の力を抑えようとする[49]皇帝や国王から[50]特許状をえて[51]自治都市となつていった。北イタリアでは周囲の農村を含めた[52]都市共和国の形をとつたのにたいし、ドイツでは城壁に守られた内側だけを領地とし有力都市は[53]皇帝に直属して諸侯と同じ地位に立つ[54]自由都市の形をとつていた。都市は共同の利害を守るため[55]都市同盟を結成した。北ドイツの[56]ハンザ同盟や北イタリアの[57]ロンバルディア同盟などが有名である。

⑤都市の運営…[58]ギルドとよばれる[59]同業組合がになう。

当初は[60]遠隔地交易を担う大商人中心の[61]商人ギルド

↓  
手工業者ら、職種別に[62]同職ギルド(ツンフト)結成

→[63]ツンフト]闘争=商人ギルドと争い、市政参加をすすめる

都市は[64]ギルドによって管理され、当初は[65]大商人を中心とする[66]商人ギルドが実権を握っていた。これに不満を持った[67]手工業者たちは職種ごとに[68]同職ギルド(ツンフト)をつくり分離し、[69]市政への参加を求めるようになつていった。この争いをドイツでは[70]ツンフト]闘争といふ。

⑥[71]ギルドの構造

同職ギルド([72]ツンフト)…中世ヨーロッパの都市における同業者組合。独立した手工業経営者である[73]親方の[74]共存共榮を目的とし、業者の数、製造販売の方法、品質などをきめ[75]経営の安定と技術の保護をはかった。業者同士の対立やともだれを防ぎ技術レベルを維持できたが、[76]自由競争を排除し[77]非組合員の活動を禁止したため、[78]經濟や技術の自由な発達を妨げるようになる。